



# 落穂会だより

秋季号 2010.10

社会福祉法人 落穂会  
 知的障害児施設 あさひが丘学園 (Tel 238-4821)  
 知的障害者更生施設 あさひが丘学園成人部 (Tel 238-4821)  
 知的障害者授産施設 旭福祉センター (Tel 244-3551)  
 知的障害者通所授産施設 第二旭福祉センター (Tel 244-3551)  
<http://www2.synapse.ne.jp/asahigaoka><http://www2.synapse.ne.jp/asahi-center/>



## 受容する心

旭福祉センター 副施設長 水流 健一

「福祉」とは字のごとく「幸福」の意を指す。「幸福」とは当たり前のことでありますが全ての人が平等に得ることのできる権利。つまりは「福祉」とは特別な人達だけのものではなく、全ての人が対象者であり、同時に供給者でもあるという自覚と価値観を持つことが大切であると思います。では、「障害」の語意はどうでしょうか。

ここで言う「障害」を大きな枠で捉えようと、「幸福への過程において、それを妨げる全ての物事」ということになります。すなわち、「心や体に何らかのトラウマや傷を持ち、人生を送る上で不安や不都合を与えている物事」ということになり、何もこれは「障害者」と認定された人達だけのものではないということになるでしょう。

このような解釈に基づく「障害」は誰もが心の中に抱え、身近に存在するものと言える。例えば恋の悩み、人間関係の悩みもひとつの「障害」でしょう。つまり、「障害」は全ての人が当たり前に直面する問題でもあるということになります。

現在、世界の障害者数は約六億人。これは人口十人に一人を上回る比率になる。一方、日本においては、約三十人に一人。(参考) スウェーデン三人に一人・アメリカ五人に一人) このことは客観的に見て、我が国の定義と解釈の狭さを表しています。日頃、私たちは自分たちの住む国は差別のない国であると思いがちですが、もしかすると私達日本人は、無意識に排除・孤立を生み出しているのではないかと?

昨今、百歳以上の所在不明老人の問題が世間で騒がれています。これは暗に、今の日本人の無関心主義が私たちの日常生活に充満し、思いやりや助け合いの精神が欠けていることを、私たち日本人自身が気付いていないことが根底にあると警告しているのではないのでしょうか。元来、「他人は他人、自分は自分」ではなかったはずなのに、「人」という字は「助け合い、寄り添っていく」という意味が字になった象形文字だということは皆さんもご存知だと思います。価値観が違う人を認められないと障害者の個性を認めることは出来ない。それは「福祉の心」が欠けていることを意味しています。私自身、自分と異なる考え(価値観)を持つ人を受け入れられない未熟者ですが、今一度自らを振り返り、他人の意見に尊敬の念を持って受け入れられる人間になりたいものです。

## あなたと逢えて

あさひが丘学園

この夏もたくさんの方々方が学園に研修や実習、ボランティアに来られました。

その中から二名の方に、私達との出会いの中で感じたことについて意見を伺いました。

鹿児島県立鶴丸高等学校 教諭 高木 俊一

利用者さんはひとりひとりしゃべり方や身振り手振りなど、コミュニケーションの手法が異なる。ひとりひとりにあわせ、相手の心中を察し、こちらが気を効かせてはじめて意思の疎通が完成する。高校生に対して会話の中にみられる表情・声色・態度などにもっと気を配り、「心中を察する」姿勢をこちら側が持つよう心がければ、今までとは違った人間関係を構築できるのではないかと考える。思えば私に接して下さった職員の方々はみなさん物腰が柔らかく、かつわかりやすくレクチャーして下さい、また利用者さんひとりひとりとレポートを確立しているようで大変頼もしくみえた。今後、今回の研修で得たものを生かし、コミュニケーションスキルを更に磨いていきたい。

ひとりひとりの違いを個性として受けとめ、心を酌みとっていきける、懐の深い教師になればと思った。

志学館大学 学生 是石 恭兵

たった五日間の実習でしたが、私にとってかけがえない貴重な体験となりました。人生の糧となるものを得ることができました。夏祭りまで参加させて頂き、今度は特別な夏になるだろうと感じております。

## 退所者

あさひが丘学園 児童部 山下 進也さん (ゆうかり学園)

## 新入所者紹介

あさひが丘学園 児童部 豊川 春紀さん

笑顔いっぱい、学園のみならず仲間と元気に過ごしたいです。

## 新任職員紹介

あさひが丘学園 成人部 水流 恭史 (地域支援室長)

何らかの形で、お役に立てればと思います。よろしくお願います。

## 相談支援事業

あさひが丘学園

「相談支援あさひが丘学園」は、平成十八年十月に鹿児島県の指定相談支援事業所として指定を受け相談援助業務を行っています。

主な支援内容は、在宅福祉サービスの利用援助、社会資源の活用や社会生活力を高めるための支援、介護相談及び情報の提供等です。

利用者や家族からの相談の中には、たくさんの方の困り事や不安なことがあり、相談者は非常に困惑している事が多いようです。しかし、相談者の話に耳を傾ける事で問題解決の糸口やヒントとなる事が隠れている事に気付かれます。平成二十二年四月からは、鹿児島市の相談支援事業所としても委託を受け、さらに相談業務の充実に努めています。福祉サービスの制度のこと、家族関係、子どもの療育について等どんな事でも一緒に考えていきたいと思っております。相談された方々に「話を聞いて良かった」と思っていただけの事業所でありたいと思っております。

連絡先はTEL238-4821です。社会福祉士等の相談専門員が、二十四時間対応しております。どうぞお気軽にご連絡ください。

## 編集後記

暑い日が続き、流行語にでもなるのではないかと、うーん今年のは「熱中症」という言葉をよく耳にしました。少しづつ涼しくなってきた。秋は流れ星を二回見ました。秋は夜空をみあげてみるのもいいかもかもしれませんね。

流れ星を見たときには願い事を忘れずに！(M)

## カフェのどがオススメ!

今回のどかメニュー紹介はスモークサーモンときのこのペペロンチーノです。秋の味覚がいっぱい詰まった一品で、食欲の秋にはぴったりの一品です。秋風を感じながらランチはいかがですか?



スモークサーモンときのこのペペロンチーノ ¥800

# 障害者制度改革の動向②

あさひが丘学園 園長 水流 純 大

障害者総合福祉法(以下「新法」)の内容を検討している総合福祉部会(以下「部会」)は今年六月から新法の論点整理に入った。

①法の理念・目的・範囲、②障害の範囲、③選択と決定(支給決定)、④支援(サービス)体系、⑤地域移行、⑥地域生活の資源整備、⑦利用者負担、⑧報酬や人材確保等、⑨その他の九つの論点について、六月から九月までの四カ月間に渡り各構成員の共通理解を深めるための検討が行われた。この後、今年十月から十二月の第一期と、来年一月から三月の第二期に、それぞれ課題別の作業チームを編成し、各論点についてのさらに詳細な検討が行われる。それを受けて平成二十三年四月から七月までに部会で再度検討し、平成二十三年八月には新法の骨格提言を行うという工程表が示されている。

前号でも述べたとおり、部会の構成員は五十五名もいるため、毎回の各論点に対する構成員の意見資料だけでも相当な分量になる。それに基づいて行われる議論も月一回(四時間程度)の議論では十分なものになつたとは言いがたい。各論点の詳細な検討は今後設置される作業チームでの議論を待つこととして、本稿では、新法の内容に大きく影響すると思われる理念規定についての議論の経過と若干の私見を述べたいと思う。

「特定の生活様式」(原文は「Particular living arrangement」、政府訳では「特定の居住施設」)の定義には議論があるところであるが、一般的には障害者が病院や入所施設で生活することを指していると考えられる。部会では、障害者が病院や入所施設で生活することを強いられるのではなく、すべての障害者が地域で生活する権利を有することを法律の中に明記すべきとの観点で議論が進んでいる。これは、障害者自立支援法が「障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与する」とした抽象的なものよりかなり具体的な内容に踏み込んだ理念規定であるといえる。

すべての障害者が自らの選択により自分の生活する場所を決め、それを支援する社会を目指すという考え方にはまったく異論はないが、そのような理念を新法に位置づけるためには多くの課題があると思われる。

「特定的生活様式」(原文は「Particular living arrangement」、政府訳では「特定の居住施設」)の定義には議論があるところであるが、一般的には障害者が病院や入所施設で生活することを指していると考えられる。

部会では、障害者が病院や入所施設で生活することを強いられるのではなく、すべての障害者が地域で生活する権利を有することを法律の中に明記すべきとの観点で議論が進んでいる。これは、障害者自立支援法が「障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる地域社会の実現に寄与する」とした抽象的なものよりかなり具体的な内容に踏み込んだ理念規定であるといえる。

すべての障害者が自らの選択により自分の生活する場所を決め、それを支援する社会を目指すという考え方にはまったく異論はないが、そのような理念を新法に位置づけるためには多くの課題があると思われる。

障害者自立支援法に変わる新法は障害福祉サービスの対象者やサービスの種類、利用の仕組み、負担のあり方等を規定する実体法または手続法としての性格を持つものである。新法の目的理念に「すべての障害者の地域生活の権利」を規定する以上、それを実現できるだけのサービスの種類や仕組み、対象者の拡大等が必要であり、とりわけ現状で圧倒的に不足している地域生活を支えるサービス量を十分に確保するための財源が必要である。

理念規定の議論に戻れば、現状においても障害者に「特定の生活様式」が義務付けられているわけではなく、これまで国が進めてきた障害者施策の結果として現在の姿があるのである。一九九〇年代以降のノーマライゼーション理念の浸透により、障害者施策の方向性は「施設から地域へ」と徐々に変わりつつあるが、現在、部会で議論されているようなドラスティックな転換をするのであれば、それを実現するに足る十分な財源を用意する必要がある。そうでなければ、「障害者の自己決定と自己選択」を理念として掲げて施行されたものの、財源不足によりわずか三年で廃止された支援費制度の二の舞になるであろう。

## 買物実習再開

あさひが丘学園

今年度より、買物実習が再開された。あさひが丘学園の全利用者を対象に一年間を使って様々な場所に出掛け買物などを楽しみ行事である。内容は様々で利用者の方々に合った方法で買物を楽しむ。学園からバスなどの公共交通機関を利用し天文館や、ダイエーなどで買物を楽しむグループなど様々であるが、共通して言えることは、みんな笑顔である。何日も前から買うものを決めている方や食事を楽しんでいる方、車に乗り出掛ける雰囲気を楽しむ方など様々であるが日ごろみせる表情とは違う一面に職員も社会へ出掛ける機会の大切さと笑顔に改めて気がされる部分が多い。

## 夕涼み演奏会

あさひが丘学園

今年もよしだポップスオーケストラ(YPO)夕涼みコンサートがあさひが丘学園で行われました。平成十五年の一回目から今年で七回目となり毎年、海の日に行なわれているコンサートも恒例となっている。当

日の天気は、急に雨が降り出したりと屋外での開催が心配されたが、みんなの思いが通じたのか予定通り園庭で行うことができた。

演奏が始まると、園庭に生の楽器の音が響き渡り、音楽に誘われるかのように一人ひとりが自然と前に集まり思い思いに体も動き始めます。演奏される曲も様々でアニメソングや童謡、おはら節など色々なジャンルの曲にみんな大喜びでした。「もう終わり。」「もう少し聴きたかったなあ。」の声も聞こえながら大盛況に演奏会も終了しました。

よしだポップスオーケストラの皆さん、心と体に響き渡る素敵な演奏をありがとうございました。また、来年も楽しみに待っています。

## キャンプ

旭福祉センター

七月三十一日と八月一日の二日間、観音寺公園にキャンプに行きました。天気も良く、みんなうれしそうに出発しました。キャンプ場に着くと早速周辺を探索したり、虫を探しに行ったりとそれぞれ楽しんでいました。夕方方には温泉に行き、ゆつくりと降っていると急に雨がポツリポツリと降ってきて、みんなパーベキューが出来

るのか不安になりましたが、しばらくすると雨は止み不安もなくなりました。早速パーベキューの準備に取り掛かり、火の準備をする人や皿やコップを用意する人など全員が協力して準備に取り組み、待ちに待ったパーベキューを始めることができました。おいしいお肉をほおばり、ジュースやビールで会話も弾み雨の心配など吹き飛んで、みんな楽しく騒いでいました。後片付けも全員でしっかりと取り組み、片づけが終わると夜の昆虫採集に出たり、ログハウスに戻りゆつくりとすごしたり、おしゃべりをしたりして夜を過ごしました。

次の日はキャンプ場を出てまほろばの里に行きました。昼食を食べた後にお土産屋に行き、それぞれ好きなものを買ったり、お土産を見たりして、楽しんでいました。

一泊二日でしたが、全員で協力することの大切さを学び、よい思い出が出来た貴重なキャンプでした。

## 最後のドッチボール大会

旭福祉センター

八月二十九日(日)協栄会のご協力で毎年恒例となっているドッチボール大会が川上小学校体育館で行われ

ました。協栄会ボランティア・家族の皆さん、旭センター利用者、ゆかり学園利用者総勢百名以上が参加しお互いの交流を深めました。

今回で最後の大会という事もあり、開会式前からあちこちでボールが飛びかき、熱心に練習している姿がみられました。試合が始まり二十名の混合チームの計六チームで午前は予選、午後からは決勝戦が行われました。試合が始まりボールをキャッチした時自慢気な顔をしてニコニコしている人や、うまく逃げ切つてホッとしている人など一喜一憂しながら、各チームで熱戦が繰り広げられていました。

試合が終了し、優勝して喜んだり、負けて少し残念そうにしていたり、皆さんとても楽しまれていたようであり、良い思い出となる一日でした。

今回で二十回目という節目に最後の大会となつてしまいました。毎年楽しい思い出を作ることが出来たのも協栄会関係者皆様のおかげです。利用者・職員一同心よりお礼申し上げます。



「野球」



旭福祉センター 利用者 宝満 忠文

僕は、小学3年生の時に野球を始めてから高校3年生まで、レギュラーでセンターを守っていました。

十八歳で旭福祉センターに入所してから、ソフトボールをして、守備はセンターでした。去年からソフトボールで初めてピッチャーをしました。ピッチャーはむずかしいと思いました。僕は、さいしよは無理だと思いましたが、だんだん投げ込みをしていたら楽しくなり、今年のきゅうぎ大会で投げました。

初めてだったけど自分なりにいいけいけんでした。来年は優勝をめざしてがんばります。ちなみに、僕の好きな野球選手は、巨人の坂本選手です。僕も、坂本選手みたいになりたいです。



坂本選手みたいになりたいです。

「大切な存在」

あさひが丘学園 保護者 地頭 政

拓俊が入所して早三年が過ぎ、今は、月一回の帰省を親子共々楽しみにしています。いや、拓俊の帰省を楽しみにしている存在が、まだいます。

我が家には、シエルティという犬種の犬が二匹います。名前はクーとミュー。拓俊の帰省を楽しみにしているのは、お姉さん犬のクーです。拓俊が十四歳の夏に、三ヶ月の子犬のクーはやって来ました。夏休みの間、いつも一緒に、拓俊がパニツクを起こすと、クーは拓俊に寄り添い拓俊はクーを抱きしめながら、気持ち



ちを落ち着かせようとするなど、お互い大切な存在でした。そして、学園に入所して暫くは拓俊の部屋に何度も捜しに行くクーの姿がありました。今も拓俊が帰省するとクーは尻尾をちぎれんばかりに振り、拓俊が頭を撫ぜた瞬間、嬉しさの余り腰が砕けてしまいます。入所前に比べ、学園の先生方のご指導のお陰でパニツクも減り、クーに慰められる光景も少なくなつた分、クーを抱っこしながら大好きなガンダムを背中に乗せたりして遊ぶことが多くなり、そんな時、嬉しそうなクーを見ると、学園に感謝しているのは、私たち親子だけでなく、きつとクーもなんだろうなと思う今日この頃です。

「自分の趣味」



あさひが丘学園 職員 奈良迫 健太

早いもので、あさひが丘学園に勤め出してからもう五年目となります。仕事をしていると失敗することは付き物で落ち込む事も多々あります。そういう時には私は自分の趣味である釣りに行き、気持ちをリフレッシュするようにしています。釣りを始めたキッカケは、去年入社した職場の同僚が釣りをしており、

頑張ってもらわないとね」  
○そうですね。私もソフトバンクを応援してみようかな。  
そろそろ夕飯の時間ですが、みなさんの好きな料理はなんですか？  
「カレー」  
「からあげ」  
「肉料理は全部好き」  
「よくばりだね」  
みんなで笑う  
「僕はスープカレー」  
○珍しい料理ですね。スープカレーはどこで食べたのですか？  
「のどかに夕食を食べに行つた時に試食で食べたんだけど、それがとてもおいしかったんだ。」  
○みなさんご飯の食べ方が早いです、どのくらいで食べ終わるのですか？  
「十分くらいかな」  
「みんな食べるのが早いよね」  
「ご飯がおいしいからね」

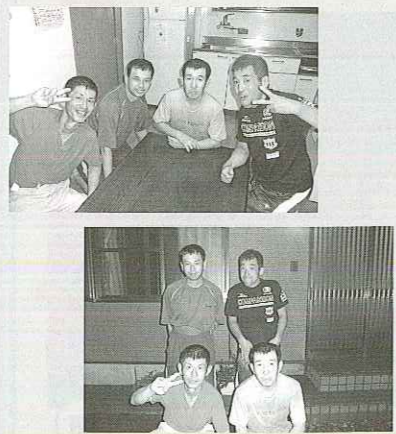
ホームにスポット



今回は、旭福祉センターのグループホーム「チューリップ」のみなさんにスポットです。  
チューリップはカフェのどかの隣にあり、男性四名で楽しく生活しています。みなさんが帰宅した後に突撃インタビューです。  
○「こんばんは。」  
○今日は、チューリップのみなさんにインタビューをしてみました

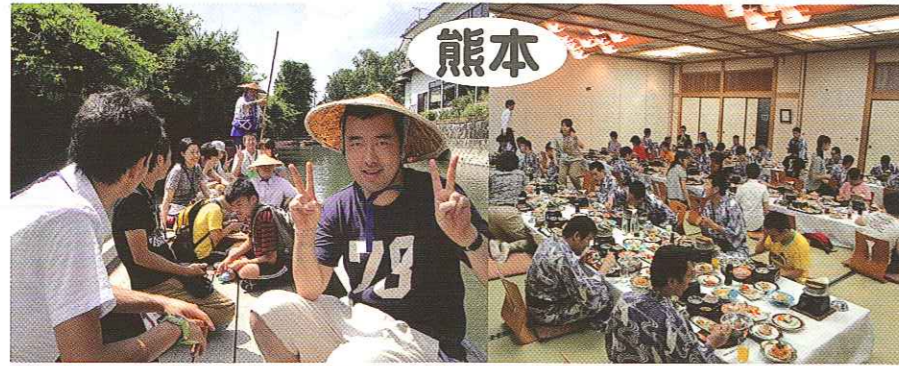
「インタビュー?」  
「インタビューに興味津々の永野さん食卓の机を出す」  
「どうぞ」と席を案内しながら...  
「今からね、走りに行くんだ」  
座るまもなく話し始める  
○何か運動しているのですか?  
「毎日、腕立てと腹筋とジョギン

グをしているよ。今は鍛えることが好きかな」カゴぶをみせながら...  
○すごい！筋肉硬そうですね。みなさんは何をすることが好きですか？  
「ゲームをすることが好きだよ。よく永野さんと一緒にゲームをしているよ」  
「僕はね、ゲームの他にテレビで野球を見る事が好きかな。」  
「そういうえはね、室屋さんは巨人が好きだから巨人が負けるとうささいよ。」  
すると、松元農園での仕事を終えた室屋さんが帰宅する。  
○お帰りなさい  
「ただいま。あら、来てんだ。」  
○今チューリップのみなさんにインタビューをしています。室屋さんは巨人が負けるとうさくなるそうですが...  
「そうかな。巨人が負けるとくやしからね。ついで」  
と笑いながら答える。  
○みなさんはどの野球のチームが好きですか  
「巨人が好き」  
「僕も巨人が好き」  
「僕はね、ソフトバンク」  
○もしかして：同じ九州だからですか  
「そうですね。やっぱり同じ九州に



○早く食べるのもいいですが、よく噛んで食べてください  
「チューリップ」  
「花火だ。見に行こう」  
2階の踊り場に案内してもらおう  
○今日はサマーナイト花火大会ですね。  
「ここからはきれいに花火がみえるよ。センターからはみえないんだけどね。」  
「みて。すごく大きい花火。緑色と赤色の花火がきれい。」  
「今年初めて花火をみた。すごくきれいだね。」  
○花火を見て、盛り上がったチューリップのみなさん。今年も花火が見られて良かったですね。  
落穂会だよりにみなさんの写真を載せるので集合写真を撮ります。  
「こんなポーズで撮ってもらおうかな。」  
「はい。チーズ」  
「さう度、違うポーズで撮ってもらおうかな」  
・常に笑顔と会話であふれるチューリップのみなさん。これからも、楽しい生活を送ってください。インタビューありがとうございました。

さんほみち



熊本

↑柳川のドンコ舟に揺られて

↑食事にカラオケに大盛り上がり

### 泊行 宿旅

あさひが丘学園



グループホームの方々は東京へ行きました



### 目帰り旅行

あさひが丘学園

いむた池レストランにて

# すなっふ スナツプ



YPOのみなさん、楽しい演奏ありがとう

### YPO コンサート

あさひが丘学園



演奏の合間に



←好みの洋服を選びます

### 買物実習

あさひが丘学園

→選んだメニューに大満足です



→ひんやりカキ氷をどうぞ。



### ゆうかり 夏祭り

旭福祉センター

→夜はのどかでもいい気分☆



←舞台も大盛り上がりです！



↑みなさんいい笑顔ですね！

## 塚田神社の月灯



↑センター自慢の灯籠です

旭福祉センター

### ドッチボール 大会

旭福祉センター

→ナイスキャッチ！



→さあ！頑張りましょう！



↑遊助の「ひまわり」熱唱中！